

一般質問



・国の放射能測定器貸出について

民政会議 狐崎捷琅 議員

国の放射能測定器具貸出について

横手市、大仙市では、市独自で放射能測定器

を購入し、給食の放射線量を測定していると聞いている。

本市でもこの放射能測定器が欲しいと思っていた一市民が、昨年消費者庁で各自治体に貸与していたことをインターネットで知り、今年も貸与があるかどうか消費者庁に聞いてほしいと市役所の担当部署を訪れお願いした。

その時、担当部署の方は、「分かりました。」と答えたと

うだが、1か月経過しても何の返事も来ないので、市長と話し合う機会があった折に市長に「お願いした件はどうなったのか」と聞いた。市長は、「初めて聞いた」と答えたそうである。

ここに大きな問題が潜んでいると思うので質問したい。①市民生活担当部署は、市民からの要望にたいして「分かりました」と言いながらどのように対応したか。説明責任を果たしたかどうか。

②もし、部長会議で話し合ったとすればどのような話し合いだったのか。議事録があったら見せて欲しい。

③昨年、消費者庁で無料で全国の自治体に貸し出すと決めたときにどうして手を挙げなかったのか。貸し出していることを知らなかったのか。それとも知っていたが、勝手に貸し出しは無理だろうと自主規制したのか。実は最近分かったことだが手を挙げた全部の自治体にこの170万円もする測定器が貸与されたそうである。手を挙げていけば仙北市でも貸与されていたことにならぬ。明らかに市の不勉強だと思

わないか。給食に放射能測定は必要だと思うが市独自で購入の予定はないか。

答弁 10月17日にその市民の方が訪れて議員の述べた趣旨のことを担当部署でお聞きした。

機器さえあれば自分たちは講習を受けてきたので自分たちで測定できるともお話していた。その方には、内容を調べて検討するという趣旨のことを部署ではお伝えした。お話を聞いた時点では、担当部署は不勉強なため消費者庁の貸与については承知して

いなかったし、担当者に確認させたところ全国の自治体に累計で394台あったことも確認した。

担当部署では事業の目的から一般市民への貸出的な運用は出来ないものと考え、庁内の関係部局で構成されていた災害廃棄物検討会に報告したが会議録はとっていない。こ



食品の放射能測定器

の件に対しての市長報告は受けていない。

担当者として市民の方に説明責任を果たしていないことであり深く反省している。尚、消費者庁へ返却があった場合の再配分と秋田県で貸与の情報も得ているので努力をしていきたい。

地震計設置の必要性について

質問 先日12月4日、7日の地震は1423年に

あったと思われる西明寺の門屋、西長野、強首の断層が関係していると思われる。今後仙北地方に地震が起こるとすれば抱き返りから中生保内に通ずる断層とこの2つかもしれないと言われている。そこでこの2つの地域に関係機関と話し合いし地震計を設置する必要がないか。

気象庁、秋田気象台防災業務課に地震計について伺ってみた。測定器が近隣にあった場合振動情報の解析に支障を来す場合もある。しかし、今後、新たな変動条件が加わることも考えられるので検討していきたいとの話であった。今後秋田地方気象台と連携を密にしていきたい。

種苗交換会農機具会場について

質問 種苗交換会の農機具会場を何処に招致しようとしているか。

答弁 可能性のあるのは角館玉川エリアと田沢湖スキー場エリアだと思っている。交通渋滞、開催時期の天候状況、主会場と第2会場との利便性を考慮に入れ、地元JA、市内の関係団体協賛会、主催者JA秋田中央会の判断で決定することになる。

角館の民謡「姉こもさ」をもっと認知させる努力を

質問 角館が誇れる民謡「姉こもさ」をもっと広めていくべきでないか。この唄は日本各地で唄われて大変有名である。残念だが角館ではあまり唄われていない。「姉こもさ全国大会」なども考えてもいいと思うがどうか。

答弁 (教育長) 「姉こもさ」については私もあまりよく知らないでネットで調べたらマイナーどころかメジャーな唄で香西かおりや三善英史なども唄っていた。今後広い見地から検討していきたい。

(阿部則比古記)

一般質問



・仙北市の深刻な借金 依存体質はどうなる

議員 田口喜義 翠巒会

付税頼みである。深刻な借金依存体質の常態化といわざるをえない。

恒常的財源確保策は。

答弁 地方公共団体が行政の自主性・安定性を高め真に地域の担い手となるためには安定した自主財源の確保が何としても必要。

今年度導入した「ページー」の普及促進やコンビニ収納の検討をしながら納付環境の整備促進をはかる。また、県の地方税滞納整理機構への派遣及び徴収委託の継続、徴収嘱託員の増員検討等引き続き積極的な滞納対策をとる。

財源については市民所得の向上がなければ自主財源の確保は難しいというのが私の考え方であるが、その為の所得向上対策、産業雇用環境の改善などに新たな政策を打ち出す必要性を痛感している。

質問 借金返済、長期リースへの影響は。

答弁 行政改革は定員管理の適正化、民間委託等の推進、福祉施設の民間委託等取り組んでいる。公債費は合併時の280億円が平成23年度末240億円と40億円の削減、また、人件費は41億7千万円から38億8千万円と約2億9千万円の削減、

公債費は伸び
市税は落ち込み
質問 仙北市の借入金
の返済は合併時17年と23年度決算の比較を
するとよくなる。歳入に占める公債費（借入金）の割合は16.3%
30億円から17.5%32.7億円と増加。
市税においては逆に28.3億円15%から26.3億円13.5%と落ち込み更に地方交付税は77.6億円41%が97.7億円51.1%と歳入の半額を占め、市税をつぎ込んで借入金返済が出来ず国の交

市債償還費が23年度ピークで32億7千万円だが今後は減少する。職員給与費は退職と採用の差額分が今後の財源として見込める。公債費の支出は依然高いので計画的削減をはかるとともに、長期リースについても業務の標準化と組織内事務改善の推進を図り、効率化に努める必要がある。

しかし、他の自治体行政と比べても、当市はまだまだそのレベルに達していないものが多数見られる。現在の状況改善の為にはある程度広範な分野で予算の配分、事業の実施も必要ではないかと思う。

質問 予算編成の組み方が、いつも9月に冬季交通対策費のように大きなものを組むが当初では組めないのか。予算編成として適切か。

答弁 いままで歳入の確定、支出負担行為の確認行為等の内容等から見て契約時により債権債務の確定したも

のについて総計予算に基づいて行ってきた。適正を欠くものではないと認識している。しかし、当初予算で財源捻出できないか努力してみた

質問 市職員の類似別団体から見た適正な職員給与構成比と職員数とは。

答弁 平成23年度の普通会計の人員費割合は類似団体平均が16.8%当市は20.7%、1万人当たり職員数は類似団体94.86人、当市は145.95人、職員数は類似団体が平均287人仙北市が441人であるので154人多くなっている。

答弁 平成23年度の普通会計の人員費割合は類似団体平均が16.8%当市は20.7%、1万人当たり職員数は類似団体94.86人、当市は145.95人、職員数は類似団体が平均287人仙北市が441人であるので154人多くなっている。

その要因は総務部門と民生部門の比較で多く、分庁舎方式による地域センターやサポーターセンター、出張所職員の配置、直営保育園の運営に要する職員配置と分析する。

財政圧迫の要因となつていくことは強く認識するが、行政面積が大変広いし、類似団体比較は人口と産業構造が基本比較が申し上げにくい。

田沢湖マラソンを メジャーに

質問 田沢湖マラソンは昨年の反省に立ち駐車場確保により4850名の参加者があり敬意を表する。

しかし参加申し込み制限をしなければならなかった理由はないか。

答弁 (教育長) 大会申し込みと同時に実施したアンケートにより駐車台数を3000台と推計。ネットや郵便物の申し込みが5300

を超えそうだと推計されたところで、昨年の駐車場まで合わなかった経験からそれを絶対避けるため苦渋の選択として締め切り前の制限をさせていただいた。

もうひとつはフルマラソン区間が大変な混雑なのでその参加者を制限した為である。

質問 1万人規模の大会にするには視点をかえたらどうか。例えば来年種苗交換会用にアキモク跡地に造成される駐車場は2000台位入る。又観光的要素が大きいがどのように思うか。

答弁 (教育長) 規模拡大の意気込みは駐車場の話は大変な朗報である。実行委員会のスタッフの充実、26年で終わる公認コースの問題など喫緊の課題は多いがもともと観光とつながりが強い大会なので観光課との連携はもとより市当局にも相談しながら考えていく。



田沢湖マラソンで活躍するボランティア

(八柳良太郎記)

一般質問



・大規模肥育牛団地の誘致について

仁政クラブ 黒沢龍己 議員

業側が上萩ノ台を強く望まれたことが今にいたる経緯である。

質問 住民に対する説明が、遅いと思うが。

答弁 11月初めに土地の所有者から協力願える旨のお話をいただき、同月中旬に県、JA、銀行からの支援を取り付けた。その上で地元への説明に入った。

種々の協議をギリギリの中で進めてきたが、その最中であれ、地元皆さんへの説明とご意見をいただく機会を持つべきであり、深く反省し又、お詫びを申し上げたい。

質問 住民の理解を得ずし、ても地権者の同意があれば本事業を推進するのか。

答弁 地域の皆様のご理解を得ずに事業を進めることは、適切でない。例えば多くの時間を要してもご理解とご協力を得られるよう、最大限の努力をしていく。

質問 誘致されるとする近場で葉タバコ栽培がなされていることを承知しているか。

答弁 タバコ生産農家方々のご不安はよく承知している。今、たくさんの関係団体が実例を含めて状況の調査をしている。後の説明会に

おいてお話しできると思う。

質問 飼料及び牛等の現地への搬入ルートは、その事については、まだ具体的な協議に至っていないが、飼料は石巻市、牛は北海道、又由利本荘市からと思われるので国道46号線、角館バイパスから中川地区を通るルートが考えられる。

質問 市長答弁によれば、同地区の道路は改良率も低い。大型車両が通ることになれば地域住民に与える不安や危険は計り知れない。それ等への対応を伺いたい。

答弁 地域の方々の安全確保は大変重要な課題であり、十分検討させていただきたい。

誘致しようとする(株)大平畜産工業の概要

設立	昭和54年3月
資本金	500万円
所在地	北海道河東郡鹿追町
事業内容	肉牛、農産物の生産販売。札幌市、鹿追町でレストラン経営
飼養頭数	交雑種 3600頭 黒毛和種 5000頭 計 4100頭

中川地区上水道計画について伺う

質問 一、角館上水道は何処の地域まで引き込めるか。

二、中川地区の上水道アンケート調査を再度実施する考えはないか。

答弁 土地の高低の関係が限界ではないかと考える。寺沢以北については、中継ポンプを用いての圧送も可能であろうと思える。

又、黒沢地区については、中継ポンプを用いても、困難だという見解をもっている。同地区には、平成19年に調査を行い、※事業を望む ※完備されれば加入したい ※飲用水に不安と不便を感じている等住民の要望が高い調査結果が出ている。今事業を進めているところであり再調査の必要はないものと考ええる。

中川地区の大字山谷、川崎、川原地区の末普及地区の解消を図るには、高い位置での水源確保が必要である。しかし、大場専用水道の余剰水量又、角館上水の送水可能範囲、これなどに検討を加えながら山谷川水源調査も合わせて検討してまいりたい。

(伊藤邦彦記)



肥育牛団地候補地(上萩ノ台付近)

一般質問



・保育園での生活が
親・子供にとって充実
したものになるために

日本共産党仙北市議団 平岡裕子 議員

臨時保育士の処遇につ いて

質問 保育園職員の内6割が臨時職員で対応せざるを得ない市の状況について、十分に理解できるが、臨時保育士に対する待遇は決して良いものとは思えない。過去にこの事について一般質問をした際に、改善をするという答弁を頂いたが、時間外手当・勤務手当を見直すだけにとどまらなかった。理由を聞くと、他にパートや臨時で働いている職員がまだ多くいる中で、保育

士だけを改善する事はできないというニュアンスの返事を頂いた。

答弁 保育士の専門性を当局ではどのように考えているのか。また、賃金の見直しについて再度検討をされているのか。

保育士は保育所の役割及び機能が適切に発揮されるように、専門的知識、技術及び判断をもって子供を保育すると共に、子供の保護者に対する保育の指導を行うなど、極めて重要な仕事をしていると理解しており、子供達が社会に必要な習慣や知識、社会の一員として歩んで行く為の力や心、そして興味や感性を育てるように保育の中で子供達を導いて行く、大切な仕事をしていると認識している。

臨時職員の待遇改善については、賃金面では平成22年度は職員一律の単価であった



頑張る保育士さん

が、経験年数や資格によって階層別単価を設け、賃金アップを図った。近隣の状況を調べてみると、経験年数等の階層別区分はなく、本市よりも低い賃金単価であった。更なる賃金の見直しについては、現在議論が始まっている少子化対策・子育て支援プロジェクトチームでも議論があるようなので、これを見極め、参考にしたい。

就学援助の充実について

質問 平成23年度決算で、本市では要保護者が194人と

なっていた。保護世帯と要保護世帯の近年の推移はどのようになっているのか。

答弁 平成21年度から23年度までは増加傾向にあったが、平成24年度12月1日現在では、昨年度より減少している。人数は、要保護・準要保護世帯合わせて177人となっている。

質問 就学援助制度の活用について、準要保護世帯に対しての対象額、申請手続き、補助方法、周知の仕方などのようになっているのか。

答弁 (教育長) 支給対象は、学用品費、通学用品費、

校外活動費、修学旅行費、給食費、医療費などで、対象額は国の支給基準に準じている。周知については、毎年2月の広報で援助内容、手続方法等について周知を図っている。既に認定を受けている世帯には再申請の書類を郵送している。

質問 また、年度途中でも随時受け付けている。国・県の基準はあるが、市の裁量に委ねられている場面が多いので、極力、色々な形で支援できるように進めている。

答弁 学校に納入する額は、義務教育なのに負担が大きい。例えば市立の小中学校であれば親が負担するべきか、市が負担するものなのか、十分考えていく必要があると思う。平成22年度からはクラブ活動費、生徒会費、PTA会費も要保護・準要保護世帯に対する就学援助に加わったが、本市での対応はどのようなか。

答弁 (教育長) PTA会費、生徒会活動費、クラブ活動費については残念ながら支給をしていない。他市町村からも色々聞いていたが、実施をしていない所が多い。

ガレキ受け入れに伴う住民の不安を払拭するために

質問 学校給食で使用する食材の放射性物質濃度等、地場産以外の食材に関して、給食だより等を通じて公表はしているが、しっかりと不安を払拭できるよう、細やかな測定と公表をして欲しいという要望がある。その事に対して、市当局はどのように答えていくのか。

答弁 市の方で様々な情報収集を行い、県にある4台の測定器の内、県南地区と県北地区のものは使用頻度が高いが、中央地区にある2台については対応が可能ではないかという状況を聞いている。

消費者庁から地方自治体に貸出した測定器を、また別の自治体に貸し替えをする事についても、制度上は大丈夫ではないかという話しも伺っている。まずその測定器を活用する事が出来るかどうか、情報収集やお願いも含め集中して対応を検討して行きたい。市民の安全・安心に配慮する事が市の責務だと思っ

(田口寿宜記)

一般質問

行政改革と門脇市政について

稲田 修 議員



行政改革と門脇市政について

行政改革とは、小さな市役所を構築してき

らりと光る仙北市を創り上げていくものと思っていた。職員意識改革と門脇市長の政治姿勢を伺い、行政改革の到達点は何なのか質したい。

市長は、メディアの方にばかり向いて市民に目を向けていないのではないか。部長等会議の「見える化」と議会への情報開示が必要ではないか。財源の確保、遊休地の売却等を行っているか。行政改

革と仙北市の目指す到達点は何か。

答弁 ①メディアに露出する案件が仙北市には多かった。いい話題ではなく、市長として説明を尽くすという対応が多い部分もあり、それが、市民に出たがりで見えているかもしれない。②毎週月曜日に部長会議を開催している。その議事録も開示している。議会への開示についてはその手法について少し考えさせていたきたい。③【総務部長答弁】財源としての遊休地の売却は行っていない。今後、未利用地の活用と売却できる遊休地の洗い出しについてきめ細かに行ってまいりたい。④仙北市が目指す将来



キラリと光る市を目指して

の到達点は何か。これは、仙北市が自立する自治体として、後年度も仙北市として事業を起こしていける自治体を創ることだと思う。この中心になるのは市民の方々と行政がどれだけ連携し、協働できていくかにかかっていると思う。

地域運営体の活動について 決算委員会で指摘された二重行政の問題。地域内で培われた助け合いの精神が失われている件・運営体で各地域団体に補助金支出の件・日当支払いの件等考えられない事が現状として起きている。この事を市長としてどう考えるか。

答弁 二重行政ではないかという事と500万円の交付金が適切に活用されているかの2点の指摘と思う。事業のすみ分けを行う為に運営体を実施する事業に関するガイドラインを作り地域運営体連絡協議会で来年度から適用する事で承認をいただきたい。上限500万円の使い方に關しては、人口や世帯数によって事業費で相当の差がある。運営体を実施している除雪等の事業については、地域の世帯数、人口の多いところ

へは、市の財源でやらなければならぬ等の財源のやり取りを検討する制度設計を考えた進めているところである。

墓地管理のあり方について 墓地管理手数料の慢性的な未納額がある。承継者不明のケースもある中で、共同墓地を提案する。墓地を整備する段階にきていると思うが市長の見解を伺う。

答弁 仙北市条例も3年滞り消し、7年間管理者が行方不明等の使用権抹消を明記している。使用者死亡の継承については、親族の範囲を広げた継承指導を行いたい。共同墓地は、宗教の違いもあり難しい事がある。今後墓地管理の適切化を進めていきたい。

白樺学級の方向性を問う 空き教室を利用して行われるようになったが、寒い中で環境も悪く、児童が気の毒である。新年度予算で白樺学級の教育環境を整備する決断をして欲しいがどうか。

答弁 (教育長) 白樺児童会の施設は老朽化が進み、耐震性、安全面、生活の快適さを考えると大変心配をして

いた。来年度からは、生保内小学校の空き教室(2教室)をお借りして運営する事で協議が調った。学校管理の問題上、簡易な区分が必要なので、翌年度事業で対応をしたいと考えている。

空き家対策と空き地対策について 倒壊してくるから

答弁 わからない空き家。緊急課題事項として解決してやるのが市の責務ではないか。空き地で草や木が伸び放題になって隣地に入り込んでいる現状。その解決方法について伺う。

答弁 空き家対策で、危険度の高い老朽家屋に対しては、撤去費用の一部助成等を今回の補正予算でお願いしている。空き家条例の設置については、法律上の問題等の整理も必要なので、少し時間を頂きたい。空き地対策については実態調査を踏まえ、住民から荒廃地、危険な箇所等の情報収集を行わなければいけないと思っている。住民の方々から情報・協力を頂きながら進めていきたいと考えている。

(熊谷一夫記)

一般質問

・田沢湖の環境再生と方向性について

田口寿宜 議員



質問 クニマス発見により、田沢湖の水質改善を含む環境再生と地域の活性化を図る人々の意識醸成のための方向性を伺う。

答弁 現状は、鳴き砂と言われる美しい白浜はなく、湖畔周辺には、物語に登場する多くの歌人に詠まれた銘木が多数あるが、護岸浸食の影響から瀕死に直面している。レイクスポーツの主流になってきている水上バイクの遊戯人口の増加によるトラブルも多くなっている。

重要な問題は、田沢湖の酸性水である。改善策として、玉川酸性水中和処理施設による水質改善が進められているが、中和処理施設を通らない一部の強酸性水、湯川の流れがある。水質改善が進まない原因と考える。県ではこれまでの中和処理の検証と新たな水質改善策の検討が始まっている。期待をしている。

田沢湖再生は、予測困難な長い年月が必要である。次の世代の担い手にしっかりと伝えていくことが大切。玉川導水前の田沢湖の姿、導水の経緯や時代背景、クニマスの歴史、文化を正確に継承する作業を怠ってはいけない。市内の学校にとどまらず、計画の仮称ではあるが、田沢湖ナショナルトラストセンターの最大活用などで責務を果たせるのではと思う。田沢湖を命あふれる湖に再生するためには、市民の方々の力がなければいけないと思っている。市民の方々の活動を応援できるような体制づくりも必要と考える。

質問 10月18日に開催された火山砂防フォーラムにおいて生保内小学校五年生の研究発表は、防災の観点からの提案、指摘があったよう

に思う。研究成果を活用し防災への取り組みを考えるべきと考えるがどうか。

答弁 先の駒ヶ岳噴火がスロロンボリ型噴火で、観光の一助になった状況で認識されている方が非常に多いこと。次に仮に噴火があったとした場合、直近の経験だけで済ませてはいけないという大きな教訓をいただいた。防災かるた、火山防災に関するピトグラム（道路標識のようなもの）は、国交省でも利活用の検討を始めているとか。

仙北市は誕生の地であるので、当然活用の状況等をイメージしながら検討している。

防災マップは、いろいろな情報を詰め込んだが、結果的には非常に見にくいとされている。駒ヶ岳に近い生保内地区、田沢湖地区の方々が、駒ヶ岳が噴火した際、初動をどうとるかというイメージをしっかりと心にとめることができるような状況を導かなければならない。すぐにも検討しなければならぬ。

質問 子ども議会を開催し、当局と議論する場を設けてはどうか。

答弁（教育長） 市内の子どもたちが、将来のまちづくりについて主体的に考えて提案できる場として、また、ふるさとを愛し、ふるさとに貢献できる意欲的な人材の育成の場として絶好の機会であると考えられる。仙北市子ども議会をぜひ開催させていただきたい。

質問 本市は、文化、スポーツによる交流には最適な場所である。文化、スポーツ交流ゾーンの中核となり、かつ交流人口の増を目指すうえでも中途半端でない、しっかりとした総合体育館施設は必要であると考えられる。若者の新たな雇用の場の創出、市民同士の交流、災害時の避難施設ともなる総合体育館建設の考えについて伺う。

答弁（教育長） 仙北市体育施設マスタープラン策定委員会の中で、仙北市のスポーツ文化活動の中核となる総合体育館建設の建設をぜひ



子供達の大切な防災に関する提言

検討してほしいと提言をいただいた。

多様なスポーツ文化活動に対応したスポーツ施設が建設されれば、市民のスポーツ文化活動の活性化が期待できる。トップレベルの大会や合宿の誘致は、広く大曲仙北地域のスポーツ愛好者やジュニア層にレベルの高いプレーに数多く触れさせることができる。競技力の向上、人的交流や宿泊による経済的効果等、その相乗効果ははかり知れないとされている。

希望する総合体育館建設には20億円近い事業費がかかると見込まれる。調査検討したい。

質問 20億円近い事業費は確かに大きい。市民にとって必要な施設、市外、県外の方々も利用できる施設、行政として必要な施設ではないかと考えるがどうか。

答弁 必要であると考えているが財政状況を見るとなかなか荷が重い事業になる。プロスポーツ会社や応援しているプロスポーツ財団等もあるので外部の要因を整理し踏み出すタイミングとした。

（平岡裕子記）

一般質問

・行財政改革を問う

高橋 豪 議員



新公会計制度と外部監査の必要性について

質問 表題に掲げた制度を任用することで行政コストを完全に把握することが出来ると思うが「効率化 経費の最小化 組織運営の適正化」市長の考えはどうか。

答弁 議員のご指摘のとおりである。監査委員の意見を伺い検討を進めたい。もう少し時間を頂きたい。

適正な定員管理について

質問 人口一万人当たりの職員数は類似自治体と比較して仙北市は突出して高い、限られた財源から効率的にやる必要がある。知恵も絞らなければいけないと思う。市長の考えは。(表1参照)

答弁 職員数の削減は行政改革で最も大きな課題である。又急激な削減は市民サービスの低下に繋がる。行政に対する市民のニーズと民間以上の重要性を考え検討致したい。

公平・公正な人事と昇級、昇格等について

質問 職員の能力、実績を把握して昇格、適材適所の人事配置をしているか。部長・課長補佐迄の割合は仙北市だけが右肩上がりになっている。なぜこうなるか実態を伺いたい。(表2参照)

答弁 組織の再編により部署が増えたこと。職員の年齢構成が上がってきたことも要因ではないかと思う。自分としては部、課長クラスの仕事は把握している。

職員個々の稼働力について

質問 住民要望の多様化、高度化ニーズに答えていく課題がある。それに答えていくのは職員であると認識

している。

市長の職員の稼働力を引き出す為の秘策を問う

答弁 市の行政サービスを行う、その組織としては、市民の皆様方と共有する「職員」というのは行政財産だという考えがある。市民の皆様への期待に応える職員育成の為これからも、尻を一生懸

表1●職員1万人当たりの一般行政部門の職員数

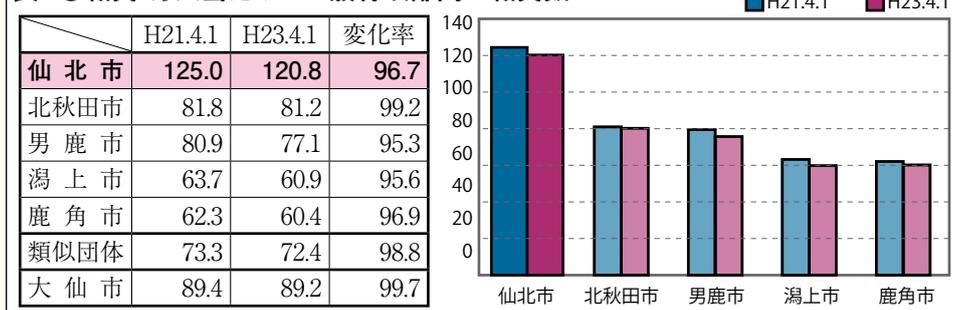
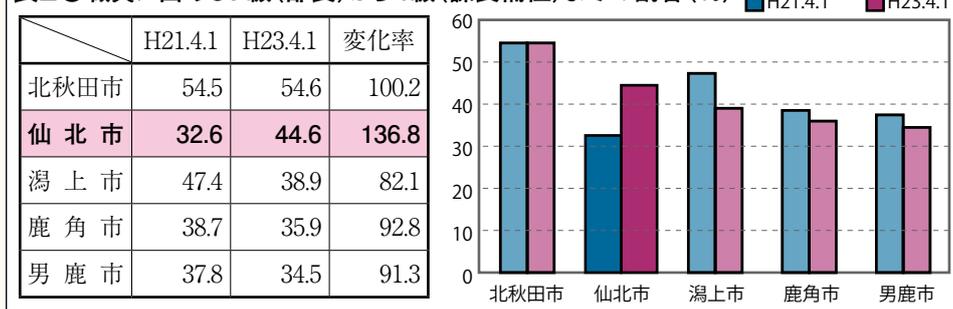


表2●職員に占める7級(部長)から4級(課長補佐)までの割合(%)



命たたいて負託に答えたい。

窓口業務の拡大について

質問 私はこの拡大策に注目している。各種証明書の宅配サービス、自動交付機の設置、コンビニでの証明書の交付等色々可能性を研究する必要もあると思うが、費用対効果も考えなくては

けないと思うが市長の考えを伺う。

答弁 色々提案を受けたが、今年中に内容等精査させて頂く、システム導入など経費をどうするか議論が必要と思う。

(稲田 修記)



期待される窓口業務の利便性 (田沢湖庁舎)

一般質問



市長の政治姿勢を問う

民政会議 阿部則比古 議員

質問 同じ仕事をしながらも、市直営の保育園・幼稚園の正職員と臨時職員の給与におよそ2倍の開きがある。大変不公平な状況であり、社会問題にもなっている。本市では今後どうするつもりなのか伺う。

答弁 これまで庁内検討会、また昨年度設置した保育園・幼稚園の在り方検討会からの提言と現状の運営形態の課題、問題について検討を重ねてきた。保留児童・待機児童問題・保育の質の向上。また6割近くが臨時保育士の

状況で、さらに今後5年間で14人の正職員が定年になる。こうした中で保育士の確保、老朽化した施設も多く臨時有期雇用では保育士が集まりにくい状況にあり(待遇も2重基準では仕事に対するモチベーションを高める職場環境とは言えない状況である。しかし現状では全ての職員を正規職員として待遇することは困難である。今後国、県の支援策の動向を注視しながら施策に反映させるため、教育委員会と連携していくと同時に議員の皆様と、協議を重ね、

25年度中にはしっかりとした方向性を導き出したい。

質問 保育分野は門脇市長のステータスとも言える分野でもあり、特に子育て支援は選挙公約として色々話していたと思うがなぜこ

答弁 私のアウンスのしかたが悪くて、以前の議会



待機児童の解消が図られた市立角館保育園

で今後保育所については民営化を検討すべき時期だと申し上げて、その後保育士さん達と協議を持ったが、十分な理解をえられなかった。いずれにしても具体化していない現状を釈明する材料にはならないと思う。

質問 国勢調査の直近の報告によると、秋田県は人口減少が日本一で、2050年には県民人口が54万人前後まで減少するとしているが、これほど激しい減少率になると、各自治体は財

政がついて行けず、2030年頃から県内自治体の財政破綻が相次ぐと言う学者もいる。本市の中長期的な財政が非常に心配だ、市長はどのような展望をもっているのか伺いたい。

答弁 合併による旧3町村28年度から始まって32年度に終了し、33年度には1つの市として算定額が計上される。試算ではおよそ13億円の削減と予測している。国政選挙の行方も不明な中で、明らかなことは医療や福祉などの歳出は確実に増えるだろう。秋田県の高齢化率は全国トップの30・6%であり、本市は県内で9位だが高齢化社会に制度設計が追いつかない状況にある。赤字か黒字かという切り口ばかりの議論は自治体の在り方の否定に繋がる。歳入歳出は工夫次第でまだ増減出来る可能性がある。

質問 財政が破綻して除雪もままならない様な状況になれば買い物すら出来ない、(健全な)仙北市は我々の皆であり今後の真剣な財政運営を願う。

答弁 門脇市長のマネIFESTOに

対する政策検証の評価が出

揃った。大変厳しい結果だが市長の政治手法に矛盾があると思う。こうした大風呂敷的な政策を現実に実現してゆくためには職員一人一人をきっちり掌握し、議会対策をしつかりやって一国一城の主たる権力者として、相当強権的な手法で結果を出さなければならぬ。しかしそう出してきた答申に手心も加えずに政策に反映させる様なやり方のどこに整合性があるのか伺いたい。

答弁 阿部議員もまた仙北市民も仙北市長に対して安定した行政運営、強力なリーダーシップを求めていることを理解している。乱世の世、ボトムアップや合議主義を重視しては、変革のスピードについていけない、判断が素早いトップダウン方式が最も必要な社会情勢だとの意見もある。しかし私はボトムアップ型を是とする人間であり、多くの市民の幸せを作り出すには一人でも多くの市民の話を聞き、出来るだけ多くの市民が政策決定プロセスに参加すべきだと考えている。

(狐崎捷琅記)